

承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
						

様式第 1 号

令和 7 年 9 月 16 日

真庭市議会
議長 長尾 修 様

真庭市議会議員

吉原 啓介



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

- 1 区 分 研修会 要請・陳情活動
- 2 訪 問 先 幕張メッセ
- 3 内 容 第15回 農業WEEK 見学
- 4 行 程 別紙のとおり
- 5 事務局から訪問先への依頼 ・

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



行程表

令和7年10月1日	移動日	13:55	岡山空港（※真庭→空港は自家用車）	ANA
		15:15	羽田空港	
		15:48	羽田空港第2ターミナル	東京モノレール
		16:07 16:12	浜松町	JR
		17:01	北浦和	
令和7年10月2日	移動	8:26	北浦和	JR
		9:39	海浜幕張	
	幕張メッセ	10:00～ 17:00	農業 Week（スマート農業・農業経営・脱炭素/SDGs）	
	移動	17:50	海浜幕張	JR
		18:18 18:25	新木場	りんかい線
		18:35 18:44	天王洲アイル	東京モノレール
		19:03	羽田空港第2ターミナル	
		20:15	羽田空港	ANA
		21:30	岡山空港（※空港→真庭は自家用車）	
	※宿泊 さいたま市浦和区			

報 告 書

令和 7 年 10 月 3 日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 吉原 啓介



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

記

1. 参加イベント

第 15 回 農業 W E E K

2. 日時

令和 7 年 10 月 2 日（木） 10 時～17 時

3. 場所

幕張メッセ

4. 内容

幕張メッセで開催されている「第 15 回 農業 W E E K」を視察した。

スマート農業向けの農業機械（ドローンはもちろん、今回は特に草刈りや水田除草の機械を多く見受けた）の展示、施設農業や農業生産にかかる情報管理システム等の紹介ブースが多く、また中国・台湾・韓国を中心に外国企業の出展も目立った。

十数社のブースで話を聞いたが、主に興味と可能性を感じたものとしては以下の通り。

① TOPPAN エッジ株式会社

ビジネスインキュベーションセンターインキュベーション部

■■■■■■ 氏

■■■■■■ 氏

農業人材のマッチングサービスを手掛けており、真庭市ともすでに協業を開始している。

立上げ準備中の農業総合支援事業体とのかかわり等に関し、担当部局とは別の立場で期待すること等の意見交換を行った。



②電源開発株式会社（J-POWER）

技術開発部

氏

氏

数年前から新しい草本バイオマス燃料として中東原産のエリアンサス、ジャイアントミスカンサスといった植物の栽培・燃料使用検証を続けている。最大の関門はこれらの植物のFIT対象としての承認。現在、経産省がバイオマス発電そのものにあまり積極的ではないため、今年度も申請したが承認は得られなかったとのこと。

この植物は、丈が高く（エリアンサスは約 3m）他の雑草の繁茂をある程度防ぐことができること、宿根性なので一度植えればかなり長い期間刈り取りが可能なこと、日本の気候では結実しないため環境破壊リスクがほぼないこと（気候変動による状況変化の懸念はあるが）、含水率が低いので燃料にするのにあたって乾燥等の手間やコストが少ないこと、イネ科の植物で繊維が丈夫なため果樹等の敷材にも使えること、等、バイオマス燃料以外にも耕作放棄地対策や果樹園等、多くの用途が考えられる。昨年も一度、バイオマス燃料としてのポテンシャルや実証栽培用地の要件等に関してヒアリングしたが、真庭の農地活用の選択肢の一つとしての可能性をあらためて話す機会を設けたい。

③株式会社グリーンシステムコーポレーション

地方創生事業部

氏

太陽光パネル下での農地運営を提案している。

全国で農地を探しているが、基本的に単体で 2 反程度以上の規模でないと土地を借り受けても事業採算に乗らないとのこと。ただ、高低差があっても構わないので、水田であればまとめるのが難しいような場所でも畑への転用前提であれば集約化できるかもしれない。

農地の所有と経営の分離、売電収入による収益の多様化等の面では可能性があるかもしれない。ただし、送電のための施設が近接していないとそもそも発電施設を作ってもどうしようもない、というところがもう一つの大きなハードルとなる。

④株式会社富士種菌

氏

キノコの種菌を扱う会社。原木椎茸というのはどこでもあるが、同社が独自に取り扱っているのが「原木舞茸」。

舞茸の菌糸を植え付けた原木を土に埋め、遮光化の環境に置くと秋に舞茸が発生する、というもので、一般的な栽培舞茸に比べて大きく育ち、数年にわたって収穫が可能なこと、施設栽培だけでなく雑木林内でも栽培

できること、野生鳥獣による食害もほとんどないこと、から中山間地での事業化の可能性もあるのではないかと感じた。
真庭高校食農生産科にも紹介してみたい。

5. 所感

農業や温暖化対策、特にスマート農業やバイオマスにかかわるイベントに参加すると、この分野の仕事に携わっている人たちに対する真庭市の知名度の高さを実感する。一方で、市の取り組みや実情がどこまで正確に理解されているかという点、無理のないこととはいえ相当なイメージ先行（つまり、実態以上に過剰評価＝かいかぶられている）の印象はぬぐえない、というのもまた実感するところ。

先行地として認識されている以上、急速に変化・進化する技術やアイデアに取り残されないよう、積極的な情報収集と事業の検証、発信に取り組む必要性を痛感する。

収集した情報や詳細資料については関係各者と共有し、検討を働きかけたい。

以 上

